

生き生きと自分を表現する力を育てるために

～園行事の取り組みと集団での子どもの育ち～

発表者 森本さおり (小さき花園幼稚園)
指導助言者 大高美穂子
(鳥取大学附属幼稚園 副園長)
司会者 前田あゆみ (小さき花園幼稚園)
記録者 石本 裕美 (小さき花園幼稚園)
川戸 実穂 (小さき花園幼稚園)

1. 発表の概要

(1) 主題設定の理由

本園はカトリック精神に基づき、宗教的な雰囲気の中で、挨拶・友だちを思いやる心・感謝の心を大切にしながら、日々過ごしている。明るく、優しい子どもが多く、異年齢で助け合う姿もよく見られるが、自分の思いを相手に伝えることが苦手であり、人前では力が発揮しにくいといった課題もある。そこで、本園のめざす子どもの姿を“生き生きと自分を表現する子ども”とし、園行事の取り組みを通して、研究を進めることにした。

行事を経験することは、幼児の活動意欲を高めたり、幼児同士の交流を広げたり深めたりする。そして、遊びや生活に新たな展開を生むと考える。しかし、様々な園行事に日々追われてしまう現状がある。行事そのものを目的とした活動ではなく、日々の保育と繋がりのあるものとすることで、子ども達が充実感・達成感を味わいながら、自信を持って、自分の思いを表現できるようになると考えた。子ども達の主体的な思いを大切にするとともに、「友だちと一緒に」という、集団での活動の楽しさを感じられるよう、保育実践を行っていった。

(2) 取り組みについて

<めざす子どもの姿の共通理解>

子ども達は自分の思いを相手に伝えることが苦手であり、人前では力が発揮しにくいといった課題があるため、全職員で子ども達の姿を読み取り、情報の共有や課題の洗い出しを行い、今後必要と思われる保育のあり方を分かち合うために共通理解を行った。

<全体的な計画の作成>

～繋がりのある保育を展開するために～

本園の教育課程は、どちらかという年間指導計画的な色合いが強かったため、県が実施する計画訪問等で指導をいただいた。この研究を機会に、次の点を意識して改善を図ることにした。

- ①年間計画に行事を位置づけること (精選)
- ②5領域の内容検討及び、各年齢のつながりを検討・修正
- ③全体的な計画の作成

(3) 実践事例

< 4歳児 行事(参観日)を中心とした活動の実施 >

☆1学期：みんなで洋服作りをしよう

〈 子どもの姿と保育者の願い 〉

ひまわり組(男児9名、女児16名)計25名の年中組。

新入児が加わったが、年少時から1クラスでそのまま持ち上がりだったこともあり、安心感を持って過ごし、新しいクラス・担任にもすぐに慣れて日々を楽しんで過ごしていた。子ども達は絵本が好きで、自由時間にも友だちと一緒に読む姿がよく見られた。その中で、「わたしのワンピース」を見ては「わたしもこんなの作りたいな。」「きれいな模様の洋服が欲しいな。」など自分のワンピースをイメージしながら楽しいでいる様子がうかがえた。そこで、洋服作りをテーマとして活動を展開することとした。

【ねらい】

- ・様々な素材を使って作る楽しさを味わう。
- ・自分のイメージを形にしようとする。

主に、めざす子どもの姿
①生き生きと自分を表現する子どもにつながるねらいを設定した

①「わたしのワンピース」の絵本を部屋でよく読んでいる(5月中旬)

②自分が着てみたい服を描いてみる(6月11日)

③新聞紙を使って洋服作り(6月14日)



④参観日でおうちの方と一緒に洋服作り(6月19日)

幼児の姿

保育者の援助

- 部屋でわたしのワンピースを読んで「僕はこれ!」「わたしはこれがいいな!」と話している。
- 自分のスケッチブックに絵を描く子もいる。

- 絵本を読んでいる場に入って声をかけたり、クラス全体でも読み聞かせをする。
- どんな模様の洋服が着てみたいか問いかけながら考えられるようにする。

環境構成

- ・自由に自分の好きな物を使ってできるよう、材料を用意したり、時間を確保する。
- ・活動への思いが高まるように、作った洋服を部屋に並べたり、ハンガーにかけて飾る。

< 考察 >

- ☆ イメージが膨らむ子は、どんどん自分の洋服の飾りつけを行うことができていた。(め①)
- ☆ 素材によっての使いわけがわからない子もいたが、友だちに教えてもらう姿に繋がった。(め②)
- ☆ 作った洋服を先生や友だちに見せたり、自分の思いを伝えようとする姿が見られた。(め①②)
- ☆ 参観では、保護者の方と一緒に作ったことで、自分達だけでは出来なかったことが出来る喜びを感じたことで、自分の服という意識が強くなっていた。(め①)
- ☆ 完成した洋服を身につけ、みんなに披露し喜ぶ姿が見られた。(め①)
- ☆ 恥ずかしくて着ることが出来なかった子もいる。(め①)
- ★ 特別な内容を参観日に設定する必要がなかったため、子どもの思考や活動に繋がりが出来ると共に、保護者の力を借りて行ったことにより、子どもの活動が深まり広がっていった。

☆2学期：洋服を使って遊ぼう

〈 子どもの姿と保育者の願い 〉

1学期、子ども達は洋服作りをテーマに遊びを楽しんだ。2学期になっても「まだ飾りをつけたい」という子どもが多かったので、その後も洋服作りが続いていった。また、自由時間には洋服を着て遊ぶ姿があった。自分が作った物への愛着が強くなり、洋服を使っての遊びが深まってきている中で、「帽子が欲しいな」という子どもの声から、小物作りをしたいと考え、話し合いをしながら、参観日で友だちとお店を開き、一緒にファッションショーをすることとした。

【ねらい】

- ・ 様々な素材に触れ、イメージを膨らませながら作ることを楽しむ。
- ・ 友だちと共に、取り組む楽しさを味わう。

めざす子どもの姿

- ① 生き生きと自分を表現する子ども
- ② 友だちと一緒に表現することを楽しむ子ども

・ 普通の遊びの中で洋服を自由に使っている

⑤ 参観日で作った洋服を運動会で忍者の服にアレンジ（9月29日）

⑥ 自分の洋服に合った小物作りをしよう（10月中旬～話し合い・11月5日～製作活動）

↓

⑦ 作った小物を使って参観日でお店屋さんごっこ・ファッションショー（11月27日）

幼児の姿

- さらに自分達で洋服の飾りつけを行っている。
- 洋服を着て、部屋でごっこ遊びなどを行っている。

保育者の援助

- 洋服をハンガーにかけ、自由に着られるようにしておく。
- それぞれの思いが出せるように、素材を準備したり、時間を確保したりする。

環境の構成

- ・ 友だちの姿を見ながら作れるように、シートを敷き、そこでグループごとに座る場を設定する。
- ・ 材料の種類ごとに分けて、コーナーを設定する。

〈 考察 〉

- ☆ 洋服を着て遊んでいる中で、「次はこれを作りたい」という子どもの声上がり、1学期の経験をもとに子ども達の製作意欲が高まっているのだと感じた。（め①）
- ☆ 1学期には恥ずかしさから着ることが出来なかった子も、「自分で作った」ということが大きな自信に繋がっていた。（め①）
- ☆ 一人ひとりが自分の使いたい素材やデザインを考えたりする中で豊かな発想が生まれたり、様々なアイデアが浮かんでいくのだと感じた。（め①）
- ☆ 自分で決め、考ながら作っている物が少しずつ完成していく中で友だちと見せ合ったり、交換して身につける姿が見られた。（め①②）
- ☆ 1学期に保護者と一緒に洋服作りをした時に作ってもらった飾りなど、真似をして作る子が見られ、友だち同士で教え合っていた。（め②）
- ★ 1学期の洋服作りを通して、次は「運動会でも使いたい！」と話すなど、誰かに見てもらう意識を持てるようになった。

☆3学期：洋服を題材にした劇あそび

〈子どもの姿と保育者の願い〉

2学期の子ども達は、今までの活動を通して、作ることの楽しさや友だちと一緒にたくさんの方に見てもらうことの喜びを感じ、積極的に取り組み、保育者が予想もしていなかった姿を見せた。その後も「次は〇〇がしたい!」「もっと〇〇したい!」と活動への思いも強くなり、3学期は、劇あそびに向けて、自分で話を作るところから取り組むことにした。

【ねらい】

- ・自分の役に喜びを感じ、友だちと一緒にお話を楽しみながら演じようとする。
- ・身体・言葉を使って自分なりに表現することを楽しむ。
- ・仲間と共に1つのことに取り組むことを楽しむ。

- ⑧みんなで絵本を元に話し合いながら話を作っていく（12月中旬～）
- ⑨劇中で使う道具や洋服作り（1月中旬～）・劇あそび（2月8日）
- ⑩みんなで「ひまわり森の洋服」の絵を描く（2月中旬～）
- ⑪クッキング（みんなでパーティーをしよう）（2月25日）
- ⑫お披露目（3月12日）

めざす子どもの姿

- ①生き生きと自分を表現する子ども
- ②友だちと一緒に表現することを楽しむ子ども

幼児の姿

- 「わたしのワンピース」を元に、みんなで話し合いながら内容を決める。
- 自分の思いを伝えようとしている。

○一人ひとりの言葉に耳を傾け、幼児の思いを尊重しながら、決められるようにする。

- 役に関係なく、自由に体を動かして遊ぶ。

○様々な動きや表現する姿を褒める言葉かけをしたり、一緒に体を動かしたりする。

- セリフ・歌詞・振り付けを考え、アイデアを友だちや先生に伝える。
- 頻りに発言する子もいるが、なかなか発言出来ない子も多い。

○幼児なりの言葉が、セリフになるように、一緒に考えながら引き出していく。
○アイデアをたくさん発表する幼児を認めながら、他の幼児にも問いかけて発言する機会を作る。

- 自分の役の洋服や大道具を作ったりする。

○子ども達の思いを形に出来るように援助・手助けをする。

環境の構成

- ・自由にいつでも話を読み返すことができるように、絵本を配置しておく。
- ・歌を覚えて自信を持って歌えるように、歌詞を書いた紙を部屋に貼っておく。
- ・広さを体で感じながら繰り返し経験出来るよう、ホールでの練習の機会を設ける。

< 考察 >

- ☆ 普段の保育の中で、役ごとに名前を呼んだり、一緒に活動したりすることで、同じ役の友だちへの意識が高まり、喜びが増したように感じた。(め②)
- ☆ 自分の役の洋服作りでは、友だちと話しながら作る子や、こだわりを持って作る姿があったり、みんなで1つのことに向かう楽しさを感じながら、取り組んでいた。(め①②)
- ☆ 保護者の前での発表だけでなく、他学年の友だちや先生にも見てもらい、大勢の人の前で役を演じて頑張れたことを褒めて、自信に繋げていけるようにした。(め①)
- ☆ 今まで活動してきたことを、1年間の集大成として自分達で作りに上げていったことで、子ども達の自信にも繋がった。(め①②)
- ☆ 劇あそびが終わってから、みんなで1つのことに取り組む楽しさを、さらに感じるようになり、絵画活動では、なかなか描けなかった子も、自ら積極的に描こうとする姿が見られた。(め①②)
- ☆ クッキングでは「パーティーがしたい」という子どもの意見から、どのように部屋の飾りつけをしたり、準備をしていかみんなで話し合いをすることができた。(め①②)
- ☆ 一番小さいクラスの友だちに今まで取り組んできたことを、見てもらったことがとても大きな喜びとなっていった。(め①②)
- ☆ 「みんなに貸してあげたい」という子ども達の思いが、自ら使い方のわからない友だちに親切に教えてあげたり、身につける手伝いをしてあげたりする行動に繋がっていると感じた。(め①②)
- ★ 保護者にも普段の活動の様子を、行事を通して見てもらうことができた。
- ★ 普段の保育が行事へ繋がり、年中組が終わるまで活動が続いていったことで、子ども達も自分で考えながら活動を広げていくことの喜びや、友だちと遊びを深めていくことの楽しさを感じることができた。

<本年度の4歳児活動>

☆1学期：みんなで汽車を作って遊ぼう

〈子どもの姿と保育者の願い〉

今年度から1クラスになり、昨年度から一緒に活動する機会も多かったため、子ども達はすぐに慣れて過ごしている。体を動かして遊ぶことが好きな子が多く、外では自転車・スケーター・鬼ごっこ、部屋では、イス取りゲーム・フルーツバスケット・じゃんけん汽車などを楽しんでいる。また、乗り物の絵本や図鑑が好きで、友だちと一緒に見ながら、「これがいい!」「あれに乗りたい!」と会話を楽しむ様子が見られた。そこで、乗り物を作って遊ぶ活動を展開することにした。

【ねらい】

- ・自分の思いを形にしなが、自由に作ることを楽しむ。
- ・友だちと一緒に遊んだり、活動する楽しさを味わう。

めざす子どもの姿

- ①生き生きと自分を表現する子ども
- ②友だちと一緒に表現することを楽しむ子ども

- ①乗り物の図鑑や絵本に興味を持っている (5月中旬)
- ②じゃんけん汽車遊びをしよう (5月中)
- ③自分の汽車を作ってみよう (6月初め～)
- ④作った汽車を使ってみんなで遊ぼう (6月13日)

↓

- ⑤参観日でおうちの方と一緒に車掌さんの帽子を作って遊ぼう (6月19日)

幼児の姿

- 友だちと一緒にする遊びを楽しんでいる。
- スケーターや自転車などに乗って体を動かして遊んでいる。
- それぞれが思い思いに汽車作りを楽しんでいる。

保育者の援助

- イス取りゲームやフルーツバスケットなど集団で行う様々なゲーム遊びを取り入れる。
- 一人ひとりの子どもの思いに耳を傾け、かなえられるよう準備をする。

環境構成

- ・自由に自分の好きな物を使って作れるよう、材料を用意したり、時間を確保する。
- ・活動への思いが高まるよう、作った汽車を発表したり、みんなで遊ぶ。

<考察>

- ☆汽車の色塗りでは、模様を描く子や様々な色を並べて塗る子など、思い思い行っていた。(め①)
- ☆汽車作りでは自由に作ることが難しく、なかなか作り込めない子の姿も見られたが、自分の汽車が出来てくるうちに思いも強くなり、黙々と取り組む姿が見られた。(め①)
- ☆作った汽車や帽子を先生や友だちに見せたり、自分の思いを伝えようとする姿が見られた。(め②)
- ☆「帽子を作りたい」という子どもの意見から、参観で保護者の方と一緒に作れたことが、とても嬉しく、また自分達だけでは出来ない飾りを作ってもらえたことに喜びを感じていた。(め①)
- ☆自分で作った物をたくさんの方に見てもらえたことが嬉しく、自信に繋がっている。(め①)
- ☆完成した帽子を身につけ、おうちの方にトンネルを作ってもらったり、友だちの汽車と連結したりして遊んだことが、子ども達にとって大きな喜びになった。(め①②)
- ★日々の保育が充実することで、子どもの活動意欲に繋がると共に、保護者の力を借りて行ったことでさらに、活動が広がっていった。2学期以降も活動が充実していけるように進めていきたい。

(4) 反省と考察

- みんなで活動をしていく中で、思いや考えを伝え合ったり、形にすることの楽しさを味わってほしいという願いがあった。イメージが膨らんでどんどん自分の世界感の中で作る子もいれば、友だちに刺激を受けながら作ることの楽しさを感じることができた子もいる。自分で材料を選んだり、試行錯誤したりしながら作ったことで、より満足感が得られたのではないかと思う。
- 日々の子どもの姿から、何に興味を持っているのかを的確に捉え、環境構成や保育者が援助をすることで、子ども達もどんどん想像力を膨らませられるようになり、自然とその思いを何らかの形で表現できるのだと考えた。
- 様々な活動を行う中で、まずは1人ひとりが十分に思いを出せること、満足感を得ることが、集団の中での表現や友だちと一緒に活動する楽しさを感じられるのだと思う。
- 行事そのものを目的とした活動ではなく、行事が日々の保育と繋がりのあるものとなることで、子ども達も活動が途切れることなく、遊び込むことができると共に、保護者の方にも子ども達の普段の様子を見ていただくことができ、自分のしてきたことを見てもらうというのが、子ども達の自信にも繋がっていると感じた。

- 職員で全体的な計画の作成を行ったことで、各学年での年間の目標が明確になり、日々の保育（ねらい・環境構成・行事との繋がり）に目を向けられるようになった。
- 各年齢のめざす子どもの姿を明らかにすることで、園全体で幼児の育ちを共通理解しながら進めることができた。
- たくさんの行事がある中で、日々の様子から子どもの見取りを深め、次へと生かせるよう、より繋がりのある保育や生き生きと自分を表現する幼児の育成を目指していきたい。
- 子ども達なりに、いろいろな形で“表現”しているので、それぞれ違う表現の仕方を認めたり、共感し受け止めたりして、幼児が安心感を持って自己発揮できるよう、援助していきたい。
- 全体計画・年間指導計画の見直しを今後も行い、職員間で共通理解を持って年齢に合わせた取り組みを考え実践していきたい。

(5) 今後の課題

- ・ 各学年及び、一人ひとりの子どもの思いを捉え、子どもが主体的に活動する行事のあり方について継続した取り組みを行う。
- ・ 今後、教育の重点や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた記録を充実させる。教師とねらいと子どもの主体性のバランスを考えた保育へと繋げていく。
- ・ 行事をさらに精選・吟味した上で、全体的な計画等を改善・実施していく。

2. 研究討議

(1) 発表内容に対する質疑応答

- Q・・・洋服作りを行う中で、自分の思いを中々言えず、躓いたり、作業を投げ出す子どもに対してどのような声かけをされましたか？
- A・・・無理に続けさせず、子どもが作ったものに対して『これはどうやって作ったの?』『これは何をイメージしたの?』など質問を投げかけ、服に対してのイメージが膨らむような声かけを行いました。

- (2) 全体討議…各グループで取り組んでいる行事の説明と、その様子の分かる写真を持参していただき ○その行事の長所 ●反省点・課題を発表していただいた。

《1 グループ》

①クリスマス発表会

- 年長児が役をする。与えられた役を全うする中で責任感が身につく。
- 幼稚園での活動なので子ども達からの声が挙がっての活動ではない。子ども達の考えを聞き、活動に取り入れていくべき。

②相撲交流

- 外部から先生が来てくださり、相撲を通して礼儀や姿勢などを学ぶ機会となる。
- 他の幼稚園と対抗相撲試合ができればと考えている。

③園外保育

○久松山の裏側から登る。ジャングルのような雰囲気を楽しみながら登る。

●天候に左右されやすい／怪我が多発

《2 グループ》

①郵便屋さんごっこ

○年賀状に関連して手紙を出す行事。園全体で行うので異年齢との関わりにつながる。年長児が仕事として手紙を回収して配達する。年少児・年中児もその姿に憧れを持っている。数字への興味づけにも繋がっている。

●沢山届けたいため一枚一枚を雑に書いてしまう。また、友だち同士の関わりを持てるように交換をしたいが、同じ園内の兄弟に向けて書く子どもが多い。

②マラソン大会

○毎週2回園内でマラソンに向けての練習をしている。秋頃大きな施設を借りて保護者に見ていただく。体力向上につながり、走ることに苦手意識を感じている子どもも練習を重ねていくうちに達成感を味わい、意欲向上へと繋がる。

●行事が近くなると兼ね合いが難しくなる。

③マリア様をたたえて

(些細なことも意識できるようになるためにクラスごとに目標を立て、出来たらシールを貼る)

○子どもなりに当たり前前のことを当たり前としてできるようになっていく。

●自然にできるのが望ましいが、『できるようになってほしい』という教師の思いからつい手伝いがちになってしまう。

《3 グループ》

①親子レクリエーション

○参観日に行う製作活動、保護者と一緒に活動するので、親子のコミュニケーションが取れる良い機会。

●保護者の方が白熱して保護者の作品になりがち。

②お店屋さんごっこ

○子ども同士が意見を出し合っ出来たお店。異年齢で関わる良い機会。

●行事に追われた活動となってしまう。園全体の子ども達の数を用意するので、時期を考えて行わないと手が回らない。仕切りたい子どもと控えめな子どもの差が開くため、言葉かけの工夫が必要。

③沢登り（夏休み中に自由参加で大山の沢登り）

○親子のコミュニケーションの機会となる。自然の中でどう動くか考える力が伸びた。

●参加人数によっては手が回りにくい。雨天時が大変。

④ガイナレー（ガイナレーの方を迎えて、サッカーもしくは運動遊びを行う）

○身体を動かす楽しさを知る。

●時期によっては熱中症になりやすい。

《4 グループ》

①お泊り保育

○いつもの遊びの中で自己発揮できなかった子どもが意欲的に楽しむことができた。

●怪我・事故が起きてしまうこともある。

②田植え

○普段できない経験ができるので、喜ばれている。

●年によっては不作の時もあり、天候に左右されてしまう。

③英語授業

○新しい言語を動作も交えながら最大限に活用する姿が多く見られる。

●知らない言葉があると集中力が切れやすい。

●春は指導する人数が多いと難しさがある。

④絵画展

○美術館に飾る。複数の作品を選び、展示するので、子どもの成長が見やすい。

●絵を通して保育者の指導の様子が分かるのでプレッシャーになる。

3. 指導助言：大高先生（全体のまとめ）

初めに、この分科会で参加された先生方の気持ちの根本は小さき花園幼稚園と同じ考えだと感じた。

小さき花園幼稚園の取り組みを見させていただいて4つのポイントがあると感じた。

①出発点の確認→全職員で共通理解→研究テーマの設定

②記録の充実（テーマとともに）

③活動の見直し

④教育課程・全体的な計画の見直し・改善・実施年間指導計画の見直し・改善

1 出発点の確認

職員研修を経て、KJ法で子どもの姿を語り合う。そして研究テーマで表現する力を身につけさせたいと感じた。また、園行事を通して手がかりに自分を表現する子どもを育てる取り組みを行うことにした。→行事とどのように繋がっているか

↳沢山ある行事をどうするか

2 記録の充実

小さき花園幼稚園は記録が充実している。そして記録の中に9つの項目が入っている。

①子どもの姿と保育者の願い

②ねらいめざす姿とのつながり

生き生きと自分の思いを表現する子ども…自分が生き生きする（楽しい）と思うこと
友だちと一緒に表現することを楽しむ子ども…友だちと一緒に嬉しい

③経過

④幼児の姿

⑤保育者の援助

⑥環境構成

⑦写真

⑧言葉・表情

⑨考察☆めざす姿とのつながり★行事とのつながり

①と②にどのように繋がっているか

3 活動の見直し

例)年中から年長の担任へきちんと引き継ぎが出来ているおかげで共通理解がしっかりできている。

4 教育課程・全体的な計画の見直し・改善・実施年間指導計画の見直し・改善

テーマがぶれていないからこそ出来たこと。

3・4・5歳と、発達の過程に合った成長に合わせた教育課程になっているか。

◎PDCA サイクル質の向上・資質の向上

PDCA (PLAN・DO・CHECK・ACTION)

教師一人ひとりが、様々なリスクを抱えながらも挑戦してやってみる。その中に必ず良さがあり、色々な経験が幅となり、教師自身の資質の向上につながっている。

◎子ども達の今と未来の幸せを願って

～一人一人の豊かな育ちを支える質の高い幼児教育を～

『今日の大会テーマ』『小さき花園幼稚園がしていること』はつまり、今の子ども達をしっかり育てていく！ということ。幼児教育は今、目に見えない教育である。一つひとつの活動が豊かな子どもの力につながっている…明日その力が現れるか、○年後なのかそれは分からないが、子どもを信じ導いていくこと、教育していくことが大切。